

院内感染対策指針

1. 院内感染対策に関する基本的な考え方

医療法人興仁会大和田病院（以下「当院」とする）は、医療関連感染の発生を未然に防止するとともに、ひとたび発生した感染症が拡大しないように速やかに対応し、制圧、終息を図る事が重要である。当院では、本指針に基づき、院内感染対策マニュアルを作成し、感染対策を行う。

※院内感染の定義

病院における入院患者または外来患者が、原疾患とは別に新たに罹患した感染症、または医療従事者が院内において罹患した感染症

2. 院内感染対策に関する委員会設置

院内感染対策委員会が中心となって、すべての職員に対して組織的な対応と教育・啓発活動を行う。

① 院内感染対策委員会

院長を含めた関係各部門責任者を構成員として組織する、感染管理における最高決定機関である。委員会は院長の諮問、決定に応じて感染対策に関する検討、立案、実施を行う。毎月 1 回定期的に会議を行い、検討した決定事項は全職員へ周知される。また、緊急時は、臨時会議を開催する。

3. 院内感染対策に関する職員研修

- ① 病院の全職員の感染対策に対する関心を高め、感染対策に基づいた医療行為を行うための正しい知識と技術を習得することを目的に実施する。
- ② 職員研修は、就職時の初期研修のほか、病院全体に共通する院内感染に関する内容について、年 2 回以上、全職員を対象に開催する。
- ③ 研修は、実施内容（開催日時、出席者、研修項目等）を 5 年間記録保存する。
- ④ 定期的病棟ラウンドを行い、現場介入による個別指導を行う。ラウンド結果および指導・改善内容を記録保存する。

4. 感染症の発生時の対応と報告に関する基本方針

感染管理上重要な病院感染症の発生数を求め、現状の対策の評価を行う。また、結果を臨床へフィードバックする事によって対策の改善を促すことを目的に、各種サーベイランスを実施する。

(1) 耐性菌サーベイランス

- ① 耐性菌の発生を把握し院内感染の予防と早期発見に努める。
- ② 検査室は耐性菌の月別・部署別検出件数を集計する。集計レポートは院内感染予防対策委員会会議で報告する。

(2) 特定の医療器具や医療処置に焦点を絞ったターゲットサーベイランス

感染リスクの高い、カテーテル関連血流感染に関するサーベイランスを実施し、感染防止技術の向上に努める。

5. アウトブレイク・異常発生時の対応と報告に関する基本方針

- (1) 各種サーベイランスをもとに、院内感染のアウトブレイクあるいは異常発生をいち早く特定し、制圧の初動体制を含めて迅速な対応がなされるよう、感染に関わる情報管理を適切に行う。
- (2) アウトブレイクあるいは異常発生時は、院内感染予防対策委員会で早期の発見・評価・終息に努める。
- (3) 報告の義務付けられている病気が特定された場合には、速やかに保健所に報告する。

6. 患者等への情報提供と説明に関する基本方針

- (1) 疾病の説明と共に、感染対策の基本については、病院職員全員が説明できるものとし、説明の上、理解を得た上で協力を求める。

7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針

- (1) 職員は、院内感染対策マニュアルを遵守し、適切な手指衛生や防護用具の使用などの標準予防策、感染経路別予防策等を実施する。
- (2) 職員は、院内感染対策マニュアルを遵守し、血液曝露防止策や予防接種・健康診断受診、個人防護用具着用などを実施し職業感染防止に努める。

附則

この指針は平成 30 年 4 月 1 日より施行する。

平成 31 年 4 月 1 日改定

令和 2 年 4 月 1 日改定

令和 4 年 4 月 1 日改定

令和 5 年 4 月 1 日改定

令和 6 年 4 月 1 日改定